

平成29年度 第2回学校評議員会記録（HP用）

日時：平成30年1月23日（火）

10：30～12：00

場所：本校第1会議室

1 平成29年度の学校運営について（重点事項、進路状況、支援状況）
パワーポイントで説明

2 平成29年度学校評価結果について
学校ホームページ「学校評価集計」を参照

3 評議員からのご提言

A評議員：

- ・計画に従い学校運営が進められており、特にセンター的機能による聴覚障がいのある子どもたちへの支援がよく行われている。
- ・地域の連携がうまくいっているので、継続して地域連携を大切にしていきたい。

B評議員：

- ・難聴児は小・中学校に散在しており、孤立している傾向もあるので、聴覚支援学校で学ぶことの意義を伝えてほしい。
- ・学校評議員会にPTA会員（保護者）も入れ、意見を聞くことが望ましい。

C評議員：

- ・評価項目の「学校が楽しいですか」が高評価な反面、「授業のわかりやすさ」のA評価（そう思う）が低いことについて、分析して対応してもらいたい。
- ・近隣に「子ども110番の家」があるので、通学の時など何かあったら活用できるので、周知してもらえればと思う。

D評議員：

- ・細かい対応を、今後も続けていってほしい。
- ・職員一人一人の悩み等に対しても、学校で組織的に取り組んでほしい。

4 学校長から

今年一年間で大きく変わったことは2つ。1つは「手話」。学習指導要領でもこれまでの「コミュニケーション手段」ではなく、「言語」としての位置づけとなった。2つ目は医療との連携が進んだこと。それに伴い、県内の支援の必要性も増えている。

本日の学校評議員会では、貴重なご意見をいただいた。地域の中で本校を理解していただきありがたい。地域から通学している子もいるので安心である。

学校評価については、子どもたちの評価で「分かりやすい授業」のA評価が低い点について、「分かりたい、さらに勉強したい」という意欲の表れでもあり、子どもたちの思いを大事にして応えられるよう努力していきたい。

また、保護者を学校評議員会のメンバーに入れるなど、PTAの意見を取り入れるよう工夫していきたい。小・中学校に在籍している難聴児については、センター的機能による支援を継続していく一方で、県内の難聴児やその保護者が交流できる場を作ることを検討したい。

<学校評議員会の様子>

